

早めの梅雨入りで、ジメジメとした日が続きますね。コロナ禍ではありますが、少しは晴れてほしいなあ、なんて思ったりします。でも、雨の音を聴きながらゆっくりと家で過ごす時間もなんだか落ち着きます。さて、今号では映画ポスター展や愛知県文化協会連合会東三河部芸能大会についてご案内いたします。十分に感染予防対策を講じていますが、みなさまご自身も感染予防対策をしつつお越しいただけたら幸いです。

## 夏休み企画 「ポスターでみる宇宙SF映画の世界展」を開催します。

- ▶とき／令和3年8月13日(金)～22日(日)9時～17時(最終日は16時30分まで)
- ▶ところ／豊橋市民文化会館2階展示室
- ▶入場料／無料
- ▶主催／公益財団法人 豊橋文化振興財団
- ▶共催／とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会
- ▶ギャラリートーク／8月15日(日)・21日(土)/14時～ 佐々木順一郎



昨年12月に6年の歳月を経て地球に帰還したはやぶさ2号の話題をはじめ、宇宙空間をテーマにした映画が1950年代以降多数製作されました。「スターウォーズ」「スタートレック」「E.T.」「エイリアン」など未知の世界を舞台にした宇宙SF映画のジャンルも多岐にわたり娯楽映画として大きな存在となっています。

今回も大人から子供まで楽しめる企画として「宇宙」をテーマにした映画を特集しました。SF映画からドキュメンタリー・アニメまで壮大な宇宙ロマンの世界をご家族お揃いで楽しみください。

資料総数 約800点以上予定

(映画ポスター 180点、チラシ・プレスシート・アイテム等宣材200点、パンフレット・プログラム等150点  
書籍・雑誌等100点、新聞広告・スチール写真等50点、サントラLP・LD・DVD・CD等150点)

### 【邦画】

地球防衛軍・宇宙大戦争・惑星大戦争・宇宙からのメッセージ・さよならジュピター・竹取物語・ヤマト実写版・ガンヘッド・はやぶさ・はやぶさ遙かなる帰還・機動戦士ガンダムシリーズ・宇宙戦艦ヤマト・銀河鉄道999・宇宙皇子・アリオン・ジュブナイル・ヴィナス戦記・オーデイン光子帆船スターライト・コブラ・機動戦艦ナデシコ・遊星王子恐怖の宇宙艇・ウルトラマン・宇宙怪獣ガメラなど

### 【洋画】

スターウォーズI～VI・スターウォーズ最後のジェダイ・イオークアドベンチャー・スタートレックI～VI・スタートレックジェネレーションズ・叛乱・宇宙空母ギャクテイカ・第5惑星・2001年宇宙の旅・猿の惑星シリーズ・エイリアンシリーズ・惑星ソラリス・マーズアタック・MIB・ギャラクシークエスト・インデペンデンスデイ・スターゲイト・2010年・ソルジャー・未知との遭遇・E.T.・グレンリン・スペースカウボーイ・月世界旅行・スーパーマンシリーズ・アポロ13など



## 愛知県文化協会連合会東三河部芸能大会を開催します。

- ▶とき／令和3年7月11日(日)午後12時開演(午前11時30分開場)
- ▶ところ／豊橋市民文化会館ホール
- ▶入場料／無料(入場を制限する場合があります)
- ▶プログラム／

予定時間	市町村名／ジャンル	出演団体／演目
12:15～	豊橋／舞踊	日本民謡研究会東三支部／「大乾杯」「鬼まつり(旧・新バージョン)」「ムゲンファの花」「TOKYO GORIN ONDO2020」
12:45～	新城／大正琴	大正琴桜洲会／「津軽の花」「さくら貝の歌」「ディズニーメドレー」「津軽海峡冬景色」「愛は勝つ」
13:25～	田原／舞踊	向日葵会／「鳩の湖」「栄光の架橋」
13:45～	豊川／剣詩舞道	日本壮心流／「偶成(孤島)」「和歌 身はたとひ」「近江八景」「さしのぼる」
14:25～	蒲郡／コカリナ、吹奏楽	コカリナアンサンブルドルフィン／「涙そうそう」「少年時代」「いとしのエリー」「コーヒールンパ」「コンドルは飛んでいく」 蒲郡市吹奏楽団／「トトロメドレー」「犬のおまわりさん 24時」「糸」「東京ブギウギ」
15:05	豊橋／箏曲	箏曲みどり会／「祭の灯」 壁谷和子社中／「さくら三重奏」 合同合奏(峰と海の会、箏曲みどり会、壁谷和子社中、紫雨会)／杉浦充作曲オリジナル合奏曲「ほのくに」



▲5月23日に実施した合同稽古の様子

「箏」という日本の伝統楽器を用いて、社中を越えて多くの愛好の方たちと大合奏が出来たなら・・・という希望は随分昔から漠然と持っていました。そんな中このような機会をいただけたことは正に千載一遇。本当に有り難いことと、この場を借りて心より御礼申し上げる次第です。

今回このイベントの為に書き下ろした箏四重奏曲「ほのくに」。

有史以前から三河地方一体を表していた地名を冠したこの曲は、豊橋の秀峰「石巻山」山頂からの眺望、三河の海、空、そして大地をイメージして作曲しました。

コロナコロナとかまびずしい、舞台芸術、音楽表現者にとってあまりにも厳しく苦しい現状にありながらも、イベントの開催を現時点で決定くださっていること、そしてそんな状況であるからこそ、参加くださるみなさんと共に音楽が出来ること、重ねて感謝申し上げます。 杉浦 充

### 見どころ・・・

今年の見どころの一つは、豊橋の箏曲家・杉浦充さんによるオリジナル合奏曲「ほのくに」。峰と海の会さんをはじめとする市内4社中での合同合奏に取り組みます。杉浦充さんに意気込みを伺いました。



今号の一枚

鈴木佑佳子  
「ひかり」

F30号 和紙に墨

植物の形、色、匂い、感触

姿カタチは違いますが、同じ生きものである事を意識しながら描いています。時に植物が人間のように意思を持っているように思ったり、私自身が植物へ擬態したり、風景に溶け込んだり、自身から植物が溢れてくるような感覚を感じながら。

生きものへの愛しさ、美しさを油絵や和紙に墨などさまざまな素材で描いています。



LINE@登録はこちら

### 略歴

豊橋市在住

京都造形芸術大学 美術・工芸学科洋画コース 卒業

## リレーエッセイ ほっと豊橋

豊橋マンデーナイトジャズオーケストラ

マネージャー

福井 敬

豊橋マンデーナイトジャズオーケストラに入団し、テナーサクスを担当してかれこれ31年になる。豊橋マンデーナイトジャズオーケストラ(以降マンデー)は1981年に結成されたビッグバンドジャズのアマチュア団体である。私が入団するあたりまで各セッションのメンバーが揃わずコンサートも開いたり開かなかったりの状況であったようだが、私が入団してからは一昨までは30回続けてコンサートを行っている。

マンデーに入るまではビッグバンドの経験は皆無であった。さらに言えば大学の3年生まではサクセスすら触ったこともなかった。私がジャズにはまったのは大学の時である。ある時、寮で同居人がMJQ(モダン・ジャズ・カルテッド)のレコードをかけていた。高校時代はフォークソングやロックに明け暮れ、ギターを片手に歌を歌っていた私だが、MJQを聞いた瞬間、インストゥルメンタル(楽器だけの演奏)のすばらしさにびっくりしてジャズにのめりこんでいった。それからはジャズ喫茶に通いに明け暮れる毎日。どこで聴いたか覚えはないがカーティスフラー(トロンボーン奏者)の「ブルースエット」は衝撃だった。リーダーのカーティスフラーもすごいが、ベニーゴルソンのテナーサクスがたまらない。「あー、俺もこんな風に吹いてみたい」なんて、やったこともないのに思ってしまった。やはり若気の至りだろう。バイトで稼いだ金で金魚を買ってサクセスを買った。その足で代々木公園に行きサクセスを組み立てた。そして吹いてみた。あれっ？音が出ない。えっ、なんで？レコードではあんなにいい音がしていたのになんぞ？？？

吹けば何とかなると思っていたがとんだ誤算だ。これは独学ではあかんぞ。慌てて大学のジャズサークル(タモリを輩出したサークルでもある)に入部。そこから学校の授業もあまり出ず、サクセスにどっぷり浸かった毎日になったのである。大学3年の4月であった。そのおかげで大学を2年留年し、サークルは無事(?)に4年間全うできたのだが。

ジャズの醍醐味はアドリブにある。わがサークルにも音大から入部していたメンバーもいたのだが、楽譜には強いがアドリブに意外と弱い。一方こちらは元々楽譜に強くないし、こうしなくてはならない、といったセオリーが全くないのでアドリブになると勝手にやれる。最終的にはちゃんとした教育を受けた音大生のほうが圧倒的にうまくなるのだが、面白いものでスタートは素人のほうが何となくそれらしく聞こえてしまう。音楽って、音を楽しむものだから、音を学ぶ音学じゃあだめだよな、なんてうそぶいていたが、ちょっとだけ真理があるような気がする。

閑話休題。楽器を初めて10年間はコンボ(少人数編成のバンド)でやって、豊橋に帰った時にジャズができる場所を探してマンデーにたどり着いた。でもビッグバンドでは譜面が中心。10年間譜面なんか関係ない、なんてサボっていた分だけつけがきて、未だに譜面と格闘しながらやっている。コンボでのアドリブも楽しいが、みんなで合奏してピタッとサウンドが一致した時には何とも言えない気持ちになる。これがあるからやめられない。去年はコロナでコンサート中止になったが、今年是可以かなあ。

早くステージと観客でピタッと気持ちを一体にしたいものだ。



木製の車の模型を作っている牧野守男さん。3年前から制作を始め、現在23台を制作。車の修理の仕事をしてきた牧野さんはものづくりが好きで、能面や木馬、子ども用の車を作ったり、時計の修理やリメイクもたくさんしているそうです。制作作業は基本毎日、ボディは2×4の木材を削って作り、100円ショップで手に入るような身近な材料を工夫して作り上げていくのが楽しく、熱中して徹夜してしまうこともあるんだとか。

▶「私のB級コレクション」コーナーでは掲載希望者を募集しています。お問い合わせは事務局まで。



市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合せまでご連絡ください。

※この予定表は予告なく変更する場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

7月	2日(金)	第780回邦楽鑑賞会 時間●14時開演 場所●豊橋市民文化会館 入場料●無料 内容●市内邦楽団体による披露
	4日(日)	茶道クラブ月例茶会 ※完全事前予約制 時間●10時～ 場所●三の丸会館 会費●会員500円 一般600円 担当●松尾流 平原誠之ピアノコンサート 時間●14時開演(13時30分開場) 場所●穂の国とよはし芸術劇場プラト アートスペース 入場料●一般4,000円 学生2,000円 内容●平原誠之によるピアノコンサート 吉川太鼓「鼓流」創立15周年記念公演「つながり」 ※緊急事態宣言発令のため当初予定していた日時、会場が変更となりました 時間●13時30分開演(13時開場) 場所●プロイデンホール 入場料●無料 内容●吉川太鼓「鼓流」による披露
	6日(火)	裏千家六日会月鑑 ※事前予約制(空気があれば当日参加可) 時間●10時～ 場所●三の丸会館 会費●800円 担当●寺部宗葉 東陽ふれあい音楽会「TOM豊橋公演～夏の訪れ～」 時間●10時～ 場所●東陽地区市民館 参加費●400円 出演●飯田牧子(ソプラノ)・大久保亮(テノール)・富永里実(ピアノ) 内容●クラシックから演歌・歌謡曲と音楽の楽しさを満喫してください
	10日(土)	県文連東三河部芸術大会 時間●12時開演(11時30分開場) 場所●豊橋市民文化会館 入場料●無料 内容●県文連東三河部による箏曲、舞踊などの発表 桜丘学園吹奏楽部サマーコンサート 時間●13時～ 場所●ライフポートとよはしコンサートホール 入場料●1,000円 内容●桜丘学園吹奏楽部とOB会による吹奏楽演奏会
	11日(日)	聖徳太子没後1400年記念事業 絵解き玉虫厨子の秘密 時間●14時～ 場所●穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース 入場料●2,000円(定員120名) 内容●玉虫厨子に描かれた絵について解き明かす
	17日(土)	日曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
	18日(日)	西村能舞台稽古 時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町) 月謝●7,000円/月1回、10,000円/月2回 お問合せ●080-1063-3855
	21日(水)	水曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

8月	6日(金)	第781回邦楽鑑賞会 時間●14時開演 場所●豊橋市民文化会館 入場料●無料 豊橋ユースオーケストラ第22回定期演奏会 時間●14時開演(13時20分開場) 場所●ライフポートとよはし コンサートホール 入場料●500円 指揮●鈴木良輔、西澤慶典 曲目●ワーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 チャイコフスキー「スラブ行進曲」ほか
	8日(日)	ポスターでみる宇宙SF映画の世界展 ..... 22日(日)まで 時間●9時～17時(最終日は16時30分まで) 場所●豊橋市民文化会館2階展示室 入場料●無料 内容●宇宙をテーマにした映画ポスター展
	13日(金)	水曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
	18日(水)	群像劇「神野新田物語」第2話「開拓の時代(明治29年～昭和10年)」 ..... 22日(日)まで 時間●両日とも11時開演/16時開演 場所●穂の国とよはし芸術劇場プラト 主ホール 入場料●S席:4,000円(当日4,500円) A席大人:2,500円(当日3,000円) A席小中校生:1,000円(当日1,200円)
	21日(土)	日曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
	22日(日)	全国郷土玩具展 ..... 29日(日)まで 時間●9時～17時(初日は13時～) 場所●豊橋市民文化会館2階展示室 入場料●無料 内容●郷土玩具の展示

### 文化短信

▼豊橋市民俳句会  
第637回句会  
コロナ禍の自粛連日を持し余す  
何処よりか沈丁匂ふ通夜の庭 林 春美  
眼病の癒えて日の花巡り 加藤美津子  
農日誌去年のけふを取り出して 山中たけし  
囁りや始めての鳥居節子 鳥居節子  
名刺の桜葉降る芭蕉句碑 高橋良子  
帰国子女の母校に進級す 篠田和代  
啓蟄や吾の手に遊ぶ蠅 藤田源一  
啓蟄や心ときめく旅帽子 大河美智子  
啓蟄の轍はためく分譲地 河合澄子  
少年の団聚く麦の秋 高橋良子  
竹皮を脱ぎ少年にをこの香 若葉雨花を散らす鉄工所 大河美智子  
若葉雨花を散らす鉄工所 大河美智子  
帰る鳥廻りに陣を組み 加藤美津子  
大らかに泰山木の花開き 山中たけし

▼豊橋文化短歌会  
四月白曜歌会  
物欲の高を思はずダンボール箱届きし後はへたんにする 池田あつ子  
眞面目だねよく言われるが自覚ゼロとかがと聞くが返事はこなし 成瀬眞智子  
右折するフロントガラスに張りつき雪のひとひら 今宵は 岩瀬美子  
蒲公英の綿毛小僧は遊び好き風のクシャミに吹っ飛んでいく 西郷賢谷  
眠いのを必死にこらえて洗いおり積み重ねる夕餉の食器 眞道富久代  
体力の弱りし隙を窺ひてヘルペスウイルスを喰む 横田隆介  
逃げ迷ふことしか出来ざる吾七歳を それでも語る語らねばならぬ 岡田宏子  
春の陽を浴びつづつ額づく墓の辺に驚愕けり 母あるやうな 岡田米子  
花かすみ桜かすみ遊びをり白黒つけぬことよろしく 宇佐美幸枝  
四月・水曜歌会  
了解のやうな顔して顔けり 室 澄子  
街で妻気つかめ振りの擦れ違い 山口タカシ  
白寿まで託すザイルが切れそう 須崎東山

▼豊橋文化短歌会  
四月白曜歌会  
物欲の高を思はずダンボール箱届きし後はへたんにする 池田あつ子  
眞面目だねよく言われるが自覚ゼロとかがと聞くが返事はこなし 成瀬眞智子  
右折するフロントガラスに張りつき雪のひとひら 今宵は 岩瀬美子  
蒲公英の綿毛小僧は遊び好き風のクシャミに吹っ飛んでいく 西郷賢谷  
眠いのを必死にこらえて洗いおり積み重ねる夕餉の食器 眞道富久代  
体力の弱りし隙を窺ひてヘルペスウイルスを喰む 横田隆介  
逃げ迷ふことしか出来ざる吾七歳を それでも語る語らねばならぬ 岡田宏子  
春の陽を浴びつづつ額づく墓の辺に驚愕けり 母あるやうな 岡田米子  
花かすみ桜かすみ遊びをり白黒つけぬことよろしく 宇佐美幸枝  
四月・水曜歌会  
了解のやうな顔して顔けり 室 澄子  
街で妻気つかめ振りの擦れ違い 山口タカシ  
白寿まで託すザイルが切れそう 須崎東山

▼五月吟行会(牟呂八幡宮)  
五月十九日、梅雨入りで生憎の空でしたが、十二名の参加で吟行会を行いました。「ええじゃないか」の発祥の地である牟呂八幡宮で、保存会の会二名のお話をお聞きしながら、作歌のヒントを求め境内を散策しました。今回は吟行会出席者の投票により優秀賞などの選出を行いました。結果は次号に譲りますが、参加者の詠草は次の通りです。  
令和三年五月十九日  
豊橋文化短歌吟行会詠草集  
緑濃き森を背にして雨の中騒乱秘める牟呂八幡宮 中島夕子  
何歳か 添え木を頼りの神木は僅かながらも若葉湛る 西郷賢谷  
八幡の参道沿いに聳え立つ鼓樓の竜は新緑の中 内藤よし胡  
神木の苔むす幹の大き洞 神様ここに午睡なされむ 池田あつ子  
鐘樓に水呼ぶ童の天井画すでに梅雨入りほそそと降る 篠田武子  
幕末にお札の降りし牟呂の杜天井画の龍「コノコ」にらむ 夏目伊代子  
欲ひつ捨ててみようか五月雨に神木の洞のいろ深みゆく 丹羽智子  
狛犬はマスクを付けて出迎へりえきじやないか発祥地八幡宮へ 岩瀬美子  
降り止まぬ雨を溜めてて暮らし小さき鼓樓の朱い華やぐ 鈴木鶴江  
傘賑わう牟呂八幡宮の吟行会歴史もろもろ三十一文字で 伊藤はつあ  
参道を行けば小雨の牟呂八幡宮降りし日の賑わい 長谷川公代  
「ええじゃないか」「ええじゃないか」と踊りたくなるよな「コノコ」鬱屈の日々 室 澄子  
八幡宮のうたびとの足と交する「ええじゃないか」の小さき声が 宇佐美幸枝



## 豊橋の文化活動—アーカイブス⑦

### ～豊橋文化協会草創期について～

#### —昔話から—

1996年2月5日付『豊橋文化』通巻第1605号の《文化随想》欄に「豊橋文協五十年に思う」と題した神野信郎氏による次のような記事が掲載されている。

「豊橋市史」には江戸から明治、大正、昭和にかけての当地域の教育、文化、文芸が、庶民も武士もいろいろな形で開花した足跡が記述され、特に明治以降の文学、和歌、俳諧、絵画、書道、茶道、華道、能楽、狂言などの誇るべき郷里の人々の記録が詳しく書かれている。また「時習館史」にも藩校時習館の人脈、自由と先覚思想の影響等が記述されている。私共は、豊橋文化協会の発展の背景には、先人たちの様々な思想や文化の活動があり、その潮流が脈々と流れ、戦後も「民」主導で草の根文化運動が生れ育った原点を忘れてはならないと思う。昭和初期には「豊橋文学」とか「文化都市」「文化」「詩と生活」などの多くの雑誌が発刊されたり「東三新人会」とか「第一次文化協会」などが結成された。「第一次文化協会」には、高崎信吉、河合陸郎などと共に、白井一二、岩瀬正雄両氏が事務局となり、文化活動を特殊な文化人に限定せず、広く市民と共に精神生活を豊かにする会をめざそうと文化創造活動を展開している。最初の事業として、当時の豊橋に所在する総ての文化団体が参加して、音楽会、新劇、世界的なバイオリニスト、エフレム・ジンバリスト演奏会など10余種目の豊橋文化祭が行われた。

#### —戦災の焼野原からの出発—

この自由、民主、文化の潮流は戦時中も消えなかった。戦災で焼け野原となった豊橋の町の中で、高須光治さんと岩瀬さんと私の父・太郎が、疎開して焼け残った本を道ばたに並べて売りながら、これからの豊橋を語りあっている内に文協の話が出た。戦後の豊橋文協の原点は文協思想で父にも影響を与えた高須光治さんではないかと岩瀬さんも書かれておられるし、私の父も語っている。終戦の年、昭和20年12月1日の父の日記には「終戦後の索漠たる空気の中に環境の推移を冷視して、感激もなく、発奮もなく、反省もなき自己を発見して愕然とする」とあり「些かでも安易放免を求める動向がありとすれば、死せるむくろを抱えて魂の故郷を忘れ果てた姿である。怠慢、虚疑ありとすれば、世の道義廢頽を云々する資格よりや。読売の浅井君に文化運動の計画を頼む」とあり、12月20日の日記には、「午後1時から経済会(注・今の会議所)で文化運動の準備会を開く。私の名で招集してあったので、これは本意ではなかったが一応挨拶する。浅井、高須、伊藤健児、寺嶋正辞、白井一二、神野(欠席者鈴木尚他多数)浅井君が中心になって主宰することを決定する」とある。

#### —発足式と一坪の花園—

豊橋文化協会発足の模様を岩瀬さんは父の伝記にに寄せて「立春がすぎてもまだ寒かった。この厳寒のとき、2月23日の午後1時半から豊橋文化協会の発会式が市立図書館の3階で行われた。50人ほどの参加者があった。神野太郎が発会の挨拶を述べ、つづいて浅井秀雄が設立経過報告を行った。そのあと記念行事として中日新聞論説委員・高島佐一郎と工学博士・大沢一郎の講演があった。会場に暖房設備があるのでなく、みんなオーバーを着たまま首をすくめて講演を聴いていた。いよいよ文協の発足だ。続いて「神野太郎はじめ中心となった数名の者は意気さかんに燃えていたが、これからこの運動が市民の中にどのように受け入れられていくか、果たして一坪の花園を作ることができるだろうか」と書いておられる。更に続いて「発足翌日のレコード鑑賞会には二百人が集った。はじめてみる顔ばかりで、髪はボウボウと伸び、目だけは異様に光って、三人用の長い机に体を伏せて流れる音をきいた。窓辺に立つと焼け跡の町は荒涼としていたが、その町の上を曲の音がしみるように響いていくようであった。音楽のわかる人も、わからない人も、この音が戦争の時の声とは確かに違うということだけはわかった。戦死した人よ。この音をきいてください。焼け出された人よ、この音をきいて下さい。祈りとともにレコードの音をきいていた。」と岩瀬さんは書いている。

#### —「豊橋文化」の発刊と心いき—

機関紙「豊橋文化」は昭和21年5月15日第1号が発刊された。神野太郎は「当面の文化運動の指標は郷土文化の素地培養に在る」、藤井草宣は「何の日か聖哲の仁人いであて、浮雲を一掃して萬姓を安んぜん」、河合陸郎は「国敗れて文化あり」と書き、燃えるような船出が偲ばれる。

戦後、雨後の筍のように結成され、華やかに活動した各地の文化団体は、戦後10年たった頃から次々に姿を消していった中で、豊橋文化協会が永く続いたのは、全国的にも稀有といわれている。その後、官主導の文化協会が全国各地に生れて、行政の文化行事の支援組織として、市民文化の発展の一翼を担っているが、文化が本質的に人間の創造的行為であり、人の営みの創造から生れ、さまざまな個性、能力が開花する、人間の生活の中の精神活動そのものであることを思うと、「民」主導の草の根運動の豊橋文協の原点こそ、これからも連綿と継承されるべきだと考える。

#### —新たな時代を迎えて—

21世紀を迎えて、日本は経済の時代から文化の時代に入った。国も県・市も政治の中心も、文化や教育の振興を生活向上の面から取り上げて主要な政策とする時代が到来した。優れた美術展、音楽会、演劇など、行政の助成ではじめて可能となるイベントも多い。その意味では、民間と行政が一体となって、広く市民各層の文化のニーズに応える文化の充実が望まれている。それが大きな時代の潮流ではあるが、豊橋文協の50年に流れる創始の精神は継承されるべきであり、そこにこそ豊橋文化協会の存在意義があり、地方の時代をひらく豊橋文化の一層の高揚もあると思う。”

#### —文化団体としての成長—

昭和21年2月23日、会長に神野太郎を擁して復活した<豊橋文化協会>は、昭和43年4月1日に<社団法人豊橋文化協会>となり、平成13年4月1日には<社団法人豊橋文化協会>を母体に豊橋市からの出資、並びに寄付金をもとに<財団法人豊橋文化振興財団>が設立されました。当該10周年の時期が、折しも東日本大震災(3.11)と重なり、様々な記念事業の実施の可否が、理事会・評議員会合同の会議の席で議論が重ねられました。最終的には、そのような困難な時こそ「文化の力を信じ、地域の活力を失わないようにすべき」と結論付け、コンサートや芝居を実施しました。さらに平成24年4月1日には<公益財団法人豊橋文化振興財団>に移行し、豊橋駅南の区画整理事業並びにまちなか活性化施策として国土交通省の補助金を得て建設され、平成25年4月30日に開館した<穂の国とよはし芸術劇場>の指定管理者となることに伴い、事務所を同施設内に移転しました。初めて芸術文化アドバイザーや芸術文化プロデューサーを採用するほか、全国から専門職員を公募するなど人材確保に努めた他財源の多様性に努めた結果、従前に増して優れた芸術文化鑑賞の機会を広く市民に提供できるようになりました。また豊橋駅前周辺においては、大道芸のフェスティバルを実施するなど、文化・芸術の枠を超え、「まちづくり」や「人づくり」の側面でも貢献できるようになりました。今年「文化協会創立75周年」「財団設立20周年」を迎えます。



津軽三味線部会によるアトラクション